

書評

[評者]

坪内博仁

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科消化器疾患・生活習慣病学教授



よくわかる肝移植

國土典宏・菅原寧彦 編

A5判 頁128 2011年

定価 2,625 円(本体 2,500 円+税 5%)南江堂刊

ISBN978-4-524-26288-5

このたび、國土典宏教授・菅原寧彦准教授をはじめとする東京大学肝移植チームの執筆による「よくわかる肝移植」が上梓された。わが国における肝移植は、脳死問題のため、主に先天性胆道閉鎖症、原発性胆汁性肝硬変、劇症肝炎を対象とした生体肝移植がまず普及した。その後、脳死肝移植が認められ、さらに肝細胞癌も対象疾患に加わったが、脳死ドナーによる肝移植の症例は大きくは増えなかった。しかし、2010年7月から改正移植法が施行され、その後脳死肝移植数が飛躍的に増加している現況にある。

肝移植は末期肝不全の最終的な、そして良好な予後の期待できる唯一の治療法であり、それゆえ患者さんやそのご家族、さらには主治医のこの治療にかける期待はきわめて大きい。したがって、肝移植の適応のある患者さんの診療に当たっては、主治医は正しい肝移植医療の知識のもとに慎重かつ適切に対応することが要求される。

本書の執筆者である國土典宏教授・菅原寧彦准教授をはじめとする東京大学肝移植チームは、幕内雅敏前

教授の時代より多くの症例を経験し、わが国の肝移植のリーダーとして素晴らしい実績を残し、肝移植の推進役を務めてこられた。本書は、実際に肝移植を考えるとといけない患者さんに遭遇した際に、注意して対応しなければいけない点について、主治医が押さえておかねばならない、逆に言うと移植医としては押さえておいてほしいレシピエントの条件、種々の肝移植適応疾患についてどのような患者がどのような時期に移植になるのか、ドナーになりうる条件など、具体的に大変わかりやすく記載されている。さらに、医療費や移植後の日常生活に関するQ&Aも用意されている。

肝移植は、経験がなければ肝臓専門医にとっても戸惑うことがあり、脳死肝移植が増加している今、本書は一般臨床医、消化器内科医、救急救命医はもちろんのこと肝臓専門医にとってもそばに置きたい本である。著者らが序文に述べているように、本書が肝移植医療のよき理解者を増やし、肝移植医療がスムーズに行われることに貢献することを期待したい。